

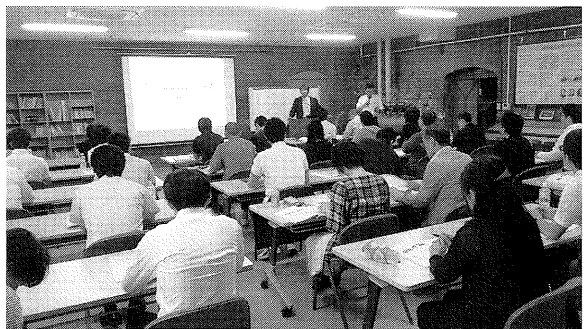
7月は文月（ふみづき）と言います。7月4日はアメリカ独立記念日、フランスの革命記念日は7月14日です。日本では7月7日は七夕祭り、7月17日が海の日です。海の日は当初7月20日でしたが、平成15年から7月の第3月曜日となっているそうです。夏休みが始まり、子供とのふれあいが増えそうです。海水浴や山登りに出かける機会も多くなりますが、飲酒しての遊泳は大変危険ですのでやめましょう。

さて、日本醸造協会の隣の赤煉瓦酒造工場の前面は公園（旧醸造試験所跡地公園といます）になっていますが、その一角に赤煉瓦酒造工場の説明版プレートが北区によって建てられました。これで一層多くの人に知ってもらえそうです。ところで、この公園には、ケヤキや松、サクラなどの木がありますが、東北以北では見られない「ムクロジ」という名前の木があります。旧醸造試験所の別の場所にあったものを平成13年ころ現在の場所に移されたものです。実がなると石けんのように泡立ち、中の黒い実は羽根つきの羽の黒い玉になると聞いています。この木は、元々九州から運ばれ植えられていました。今では、樹高10m以上で、夏の日差しの下で涼しげな日陰を造っています。ずっと、残ってほしいと思っております。ちなみに、英名はIndian soapberry だそうです。

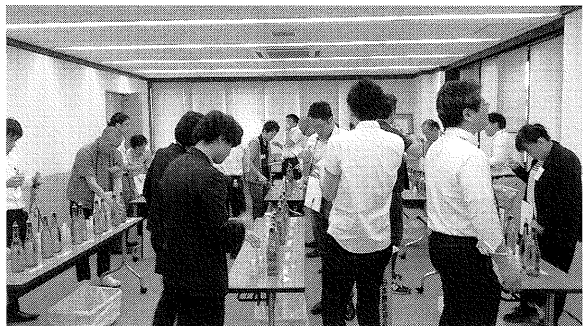
今回の話題は、前号に引続きセミナーの紹介です。

第29回きき酒セミナーは、6月の13日～14日（1回目）、15日～16日（2回目）に開催しました。定員は各30名でしたが、いっぱいになりました。セミナー1日目は、午前中は「実践きき酒の基礎」の講義です。ここでは、嗜好評価と客観評価、酒質はどのように評価されるか、きき酒の心得、きき酒の準備・手順・ポイントとコツ、個別味の評価のコツなどを勉強します。午後は、①においの識別、②アルコール度数の順位、③日本酒度の順位、④甘味の識別、⑤香気特性の記憶と識別の実習を行い、最後にきき酒結果について解説が行われます。2日目は、午前中の最初は、官能評価法ときき酒訓練法を勉強します。その後は、午後にかけて、①酸味の識別、②味の濃淡、甘辛の識別、③タイプ別清酒の記憶と識別、④特徴ある市販酒のきき酒

を行い、最後に、きき酒の総評と受講証の手渡しで終了しました。きき酒実習では、成績の良かった方に対して、「きき酒マイスター」の称号を授与していますが、今回のセミナーでは、60人中5名がマイスターでした。中には、全問正解のきき酒能力が抜群の方もおられ、去年は2名いらっしゃいましたが、今年は残念ながらいませんでした。全問正解者は、協会誌8月号に写真付きで紹介されます（昨年度の全問正解者は、111巻544ページ（8月号））。また、マイスターをとれなかった方は、3年以内であれば、再チャレンジができる仕組みになっており、今年も週が明けた6月19日に行われ、再チャレンジ17名中9名がマイスターを取得されています。詳しくは、協会までお問い合わせください。皆様も、きき酒セミナーを受講して見ませんか。



講義風景



きき酒実習